

JAC北九だより

NO.57 (平成23年第3号)

~ 社団法人 日本山岳会 北九州支部 Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club 発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局: 福岡市早良区昭代3-9-5-502

山田 武史 方

TEL·FAX:自宅 092-844-3563

携帯 090-6422-5662

編集人:伊藤久次郎・関口興洋 印刷:山口県山口市水の上町2-25

内藤製本所



記念講演講師の栗秋正寿氏を真ん中にして、北九州支部総会に参加のみなさん

平成23 (2011) 年度 第12回通常総会の報告

伊藤新支部長のもと、新体制でスタート 新たにスキー部を創設

事務局長 山田武史

平成23年4月23日(土)午後3時よりブルーウェーブイン小倉において、北九州支部の第12回通常総会ならびに関連行事が開催されたのでご報告致します。

1. 通常総会

定刻の午後3時、大楠副支部長の開会の辞で総会が始まり、初めに磯野委員より総会当日の出席者44人、委任状提出者52人、計96人。平成23年4月23日現在の在籍者は本部会員82人、支部会員64人、計146人であり、この総会が成立していることが確認された。

議事に入る前に大庭支部長よりあいさつが行われた。

このたびの東日本大震災で被害にあわれた皆様へのお見舞いの言葉のあと、昨年5月に10周年記念行事で当支部初の海外遠征登山となった韓国「智異山」の登山中に、会員の室津健次さんが亡くなる悲しい事故があったこと、また、昨年10月30日(土)の記念式典には

尾上会長に臨席賜り「ナイロンザイル事件と東海支部」をテーマに講演いただき、10周年記念の諸行事も無事終了できた事、今後は15周年、20周年に向けて更なる活動を期待しますとの言葉で結ばれた。

その後、議長に大庭支部長を選出し、議案の審議が 行われた。

第1号議案 平成22年度事業報告

(板倉委員から報告)

第2号議案 平成22年度収支決算報告

(馬場委員から報告)

第3号議案 平成22年度監査報告

(大城戸監事から報告)

以上の3議案は一括審議の結果、承認可決された。 第4号議案 役員改選(案)の審議

(大庭支部長から説明)

後記の新役員(従来より3人増の14人)で承認可決 された。 第5号議案 平成23年度事業計 画 (案) の審議

(山田委員から説明)

第6号議案 平成23年度収支予

算(案)の審議 (馬場委員から説明)

ホームページ作成費用、山行 備品費の使途及び山行備品貸し 出しについて質問あったが、今 後委員会で詳細を検討する事で、 2議案とも承認可決された。

その他

新役員全員(中岡委員は欠席) が檀上に上がり、紹介が行われ た。(右「新役員の方々」参照)

2. 記念講演

総会終了後の慣例行事として記念講演が次の通り行われた。

○ 講 師

栗秋 正寿 氏

1972年日田市生まれ、九州工大山岳部出身。1995年7月、在学中にマッキンリーに登頂。その後、アラスカ3山のフォレイカー、マッキンリーの冬期単独登頂に成功。本年2月「植村直己冒険賞」を受賞。



栗秋正寿氏

○ 講演テーマ

「アラスカの垂直と水平の旅」

1998年2月13日より約1カ月を要して、マッキンリー(6,194m)に単独で登頂に成功(垂直の旅)、下山後アンカレッジで3週間の休養をとり、引き続いて4月3日より約3カ月をかけて、アンカレッジから北極海のプルドー・ベイまでの1,400Kmを、リヤカーを引いて歩ききった(水平の旅)この2つの旅が、講師の撮影されたスライド写真をベースに語られたが、さわやかな語りの中にも-50度の世界が映し出されてお



記念講演の様子

新役員の方々

支 部	長	伊藤	久次郎	(13499)	新任(全般)
副支部	祁長	板倉	健一	(13471)	新任(緊急対策、備品管理)
副支部	祁長	関口	興洋	(13643)	新任(安全登山、公益事業)
事務周	最長	山田	武史	(13992)	新任 (事務全般)
委	員	江頭	精一	(10448)	新任(広報担当、ホームページ作成)
委	員	日向	祥剛	(11427)	留任(自然保護委員長)
委	員	原	広美	(11990)	新任(山行委員長)
委	員	浜松	禮子	(13523)	新任(総務担当)
委	員	馬場	基介	(13532)	留任(財務委員長)
委	員	磯野	文雄	(13533)	留任(総務委員長)
委	員	中岡	邦男	(14206)	新任(山行担当)
委	員	池田	智彦	(14876)	新任(スキー部長)
会計監事		高畠	拓生	(13541)	留任 (会計監査)
会計監	监事	藤田	傳	(13722)	新任(会計監査)

り、大感激でした。

この旅の成功の裏には、講師自身の信念である「命あっての物種、生還が最優先」が根底にあったからだろうと思います。また、事前トレーニングとして地元の水産会社の-55度の冷凍庫を借りて装備面、肉体面、精神面で訓練したとのことです。

3. 懇親会 (司会 日向委員)

出席者36人が九重、阿蘇、霧島、祖母の4テーブルに着席。吉村北九州支部名誉会員の乾杯の音頭で開演。ビール、酒、焼酎の3種混合で交流の場も広がり新入会員(古木義邦、清家幸三)の紹介、そして恒例の「坊ガつる讃歌」の大合唱で中締めとなった。

なお、懇親会に参加いただいた講師の栗秋氏が退場の折「言い忘れておりましたが、この程のアラスカ遠征にあたり、日本山岳会からも資金援助を頂いたので、この場を借りてお礼申し上げます」とのあいさつがあった。

総会参加者(敬称略)

(本部会員) 吉村健児、園川陽造、江頭精一、大庭常生、日向祥剛、井上 佑、吉永威幸、大城戸昌敏、原 広美、大楠益弘、板倉健一、伊藤久次郎、西村信子、濱松禮子、浦田和夫、馬場基介、磯野文雄、高畠拓生、末吉史忠、関口興洋、藤田 傳、橋本建一郎、横山洋子、山田武史、池田曉彦、高城季美子、内藤正美、丹下 洽、牧 寬、大木康子、榊 俊一、丹下香代子、大内喜代子、福田陽子、古木義邦、竹本正幸、竹本加代子、池田智彦、

(**支部会員**)田中 峻、和田英昭、室田安代、 大神信生、赤瀬榮吉、清家幸三

合計 44 人

就任のごあいさつ

新支部長 伊藤 久次郎

このたび、4代目組長を・・・、いえ、4代目の 北九州支部長をおおせつかりました、伊藤久次郎で ございます。まさか私なんか・・・と思っておりま したが、世の中分からないものです。土壇場になっ て前大庭支部長から、「支部長はボ〜としとけばい い」と聞いて私は、自分にピッタリではないかと思 い、引き継ぐ決意をしたわけであります。何と単純 なことか、先が心配です。しかし、一旦決めたから にはやらねばならぬと、決意を新たにしたわけであ ります。どうか、新米の私をよろしゅう〜お願い申 し上げます。

わたくし、生まれも育ちも福岡県は筑豊田川でございます。田川たがわといってもいささか広うございます。田川は、福岡県の霊峰英彦山のふもとでございまして、昔から炭坑町として栄えた古代都市でございます。ほんの最近、昔の炭坑生活を描いた山本作兵衛の絵が、日本で初めて世界記憶遺産に登録され、世界的に有名になりつつある町でございます。以後よろしくお見知りおきを。失礼しました。東映

映画の見すぎでした。

ところで、日本山岳会では、今、4つのプロジェクトチームを立ち上げ、日々努力しているところです。まずは法人化問題、そして支部活性化問題、若者対策問題、山の日制定問題などです。これらの問題は、基本的には本部の方針にしたがって活動していけばいいと思います。

北九州支部では、支部活性化の事業として、園川陽造先輩が提案された「女性専科」を、早速今月末に第1回目を皿倉山で開催することになりました。これは山ガールを指導するための女性リーダー養成専科でもあります。また若者対策でもあります。女性だけでは不公平? と思われる方には、男女合同による「登山技術専科」も計4回ご用意しております。まずはやってみて、うまくいけば継続していきたいと思っております。これらの活動を通じて、さらなる活動につなげていければと思いますので、みなさんのご参加、ご協力をよろしくお願いします。

報告

公益法人新定款、4分の3以上で可決! 平成23年度第1回通常総会

6月18日(土)、本部の日本山岳会ルームで開催 された支部長会議と東京都千代田区の主婦会館プラ ザエフで開催された、通常総会に出席しましたので 簡単に報告します。

1. 支部長会議(午前10時~午後12時30分)

議題は、7項目予定されていたが、午後の総会で 提案される議案や、新法人移行にともなう「支部に 関する規定改正」(案)等が主題となった。その他、 今回支部長が交代した7支部(青森、山形、栃木、 山梨、京都、北九州、東九州)の紹介があった。

2. 通常総会(午後2時から午後7時30分)

○ 会長あいさつ

本日は重要案件があるので、ぜひご審議願いたい。 東日本大震災の募金結果について、6月10日現在 で475万円のご奉仕を賜った。これの使途について は次年度の執行部に依頼することにしている。

○ 司会の宮崎副会長から定数の確認があり、本日

の出席は委任状も含めて4166人で有効と発表。また平成22年度末の会員数は5109人で、前年比-75人。
つづいて議事の進行に入り、尾上会長が議長となり、席に着いた途端、審議に入る前から質問が出始めた。ようやく議事の第1号議案「新法人移行にともなう定款変更(案)承認」の審議に入ったものの、やはり質問が相次ぎ、第1号議案だけで4時間かかった。定款の一部修正などを理事会に一任することで何とか決着。採決に入り、賛成、反対の数を念入りに数えて計算。賛成4017反対136で、問題の4分の3をクリアし可決した。

そして、第2号から第5議案まで、何とか承認されたが、総会が終了したのが午後7時半で、5時間30分の総会であった。

以上のとおり、日本山岳会は公益法人に向かって まず第一歩を踏み出したわけです。

(伊藤 久次郎)

新講習会開催します

夏季と積雪期に女性だけの女性専科と、男女合同専科の講習会を実施します。 講師は、JAC北九州 支部会員、園川陽造氏(会員番号5306)です。

女性グループで登山中の滑落や事故にあったときの対処の仕方や、中高年の安全な歩き方など、更に 岩登りの基本技術などを教えていただきます。たくさんの参加をお待ちしています。

山行委員長 原 広美

山岳技術専科

(男女合同専科)



「初級クライミング技術」 「有効なクライミングと装備の活用」 「その他」

- 講師 園川 陽造氏(No. 5306 当支部会員、日本体育協会公認上級コーチおよび山岳マスター)
- 日 時 7月16日(土) 午前9時~午後3時まで
- 場所 皿倉山NP0自然愛護会研修室および国見岩付近
- 集合 午前9時、帆柱ケーブル山麓駅 駐車場有り
- 山頂・国見岩付近まで登山(約50分)、途中実技講習。研修室で実技のまとめや質疑(昼 食)などを行います。
- 申込み 板倉 健一 (TEL 080-2719-0402) 〆切り 7月10日まで

「地図の活用とルート選定」「予定コースへの脱出」「その他」 テーマ) 第2回

- 日 時 10月1日(土)午前9時~午後3時まで
- 場所 第1回に同じ
- 集合 第1回に同じ
- 行 程 第1回に同じ
- 申込み 竹本 正幸 (正 0930-28-9611) 〆切り 9月22日まで
- (第3回目は、24年1月15日(日)「雪上の救助技術ほか」。
- (第4回目は、同年4月1日(日)「装備の有効活用ほか」
- などを予定しています。

女性専科



「一般登山道における山岳事故救助技術」 「事故のメカニズムについて検証」

「捻挫、骨折の事故者を一般装備により救助し搬送する体験」

- 園川 陽造氏(No. 5306 当支部会員、日本体育協会公認上級コーチおよび山岳マスター) 講師
- 日 時 7月30日(土) 午前9時~午後3時まで
- 皿倉山NP0自然愛護会研修室および国見岩付近 場所
- 午前9時、帆柱ケーブル山麓駅 駐車場有り 集合
- 山頂・国見岩付近まで登山(約50分)、途中実技講習。研修室で実技のまとめや質疑(昼 行 程 食) などを行います。
- 申 込 原 広美(型 083-245-5490) 〆切り 7月23日まで

(第2回目は、11月3日(祝)。テーマは「シルバーコンパスの使い方の実践」「筋肉疲労とその対策」 などを予定しています)

九州5支部合同集会の報告(熊本支部主管)

阿蘇「いこいの村」へ、当支部から10人参加

No.13992 山 田 武 史



懇談・懇親会会場で(熊本「阿蘇いこいの村」)

平成23年6月4日(土)午後3時から、「阿蘇いこ いの村」で日本山岳会九州5支部合同集会が、熊本支 部の主管で開催された。

前回は、2年前に東九州支部主管による筋湯温泉で は38人の参加でしたが、今回の参加者は65人となり、 盛況でした。

1. 熊本支部工藤支部長の歓迎のあいさつ

この九州5支部合同集会は1975年(昭和50年)に スタート(ただし、当時は4支部)して、各支部間 の親睦、交流を深め、支部活動の活性化を目的とし て今日に至っている。今後も継続されるよう、願っ ている。

2. 日本山岳会本部挨拶(宮崎副会長)

この日は、上高地でのウェストン祭と重なり、尾 上会長ほか役員が上高地に行っており、人選で自身 が当地訪問となった状況説明の後、尾上会長のメッ セージを代読された。

3. 各支部からの近況報告

○福岡一副島支部長、

6月11、12日自然保護全国集会を福岡で開催、カン リガルポ山群への遠征登山計画中、「岳人のつどい」 を毎年1月に開催中。

○北九州一伊藤支部長

4月の総会で、支部長他役員の交代があった。昨年 10周年記念行事で、韓国 智異山、槍ケ岳、英彦山登 山を行った。森林保全巡視及び清掃登山を行っている。 登山講習会(女性専科)およびホームページの開設を 検討中。

○東九州一加藤支部長

昨年50周年。4月の総会で23年振りに支部長交代。 月例山行。6年前より、韓国山岳会と交流登山実施。 九重山児童登山教室開催。今年の月例山行のテーマは 「島めぐり」。

○宮崎一末永支部長

昨年は、口蹄疫、新燃岳噴火と大変な年だった。 別紙の資料「平成23年度行事予定表」に基き、説明が あった。

○熊本支部一工藤支部長

別紙の資料「平成22年度熊本支部事業報告」に基づ き、報告があった。

また、昨年9月祖母山で発生した遭難事故に、熊本 支部では延べ50人が捜索に出動したが、宮崎支部から の8人の応援出動に謝意が述べられた。

会九州5支部集会

4. 講演「日本山岳会が目指して きたものし

(日本山岳会副会長 宮崎紘一氏)

日本山岳会の総務担当として4 年間を経験、その中で批判もたく さん頂いてきた。本部でルームを 持っているが、会員からは、本来 はクラブなのだから、ルームをも っと自由に使いたいとの声がある が、4つの部屋はいつも満室。委員会(図書、資料等)は20ほどありまた、同好会(同期会、山水会等)も同様に20ほどあって、すでに限界に来ている。東京近郊だけでも2千人の会員がおり、活発に活動するためにもルームが欲しいとの声も強く、ジレンマにおちいっている。また、現在推進中の問題としては

- ① JAC YOUTH―若手リーダーを育てる。
- ② 支部活性化の問題―新法人に移行するに当たり、 支部規定の見直し。
- ③ 山の日制定一鋭意推進中。

以上の講演終了後、質疑応答に入ると、各支部員より矢継ぎ早に「支部の位置付け」「支部への助成金について」「新支部設立について」等、活発な質問があり、予定時間を30分オーバーする程、充実した意見交換となりました。

5. 懇談·懇親会



午後30分親、部杯っくもいたままでと程懇問の、。ままでと程懇問の、。ままの、。ままのの、。ままのの、。ままののののでは、のののののでは、おいては、おいては、おいては、おいては、おいては、いいでは、いいでは、

宮崎支部お得意のひょっとこ踊り 深まった頃合い に、各支部の余興の披露です。民謡、山のうた、ひ よっとこ踊りと芸達者な人が多く、大変楽しい宴 会でした。

6. 平成23年6月5日(日)記念山行と観光

朝からの雨であったが、雨の上がる事を期待して8 時に「いこいの村」をバスで出発。登山口の草千里展 望所では、雨は更に強くなったが、ここで観光組と別 れて、我々山行組54人は5班に編成の上、レインウェ アに身を包み、8時40分杵島岳を目指して出発した。 以後の行動は頂上で判断するとの事。9時30分杵島岳 頂上(1,326な)着。山頂からの展望はあまり利かず、 阿蘇山の噴火口も一瞬姿を見せたが、すぐ雲の中とな る。雨も若干小振りとなった故、予定通り進む事とな り、9時50分杵島岳を出発。往生岳を目指す。稜線か ら眼下に目を移すと、整った形の米塚がある。人工物 の古墳と思ったが自然にできた山との事。自然は不思 議が一杯です。往生あん部までの下りは滑り、神経を 使う。あん部で休憩後、一気に往生岳を登り頂上(1,2) 65 行) に10時40分着。ガスが濃く何も見えない。あと は牧道におりるのみと安心していたが、ショートカッ



雨の中をゆく記念山行組

トを試みて牧場の中の道なき道を進んでいたリーダー も、余りのガスの深さに道を見失ったようでしたが探 索の上、ルートを決定して、悪路を懸命に下り、本来 の道に出ました。

コンクリートの牧道一大曲車道一放牧場一高塚山を経由して芝生のきれいな「みんなの森」着が13時20分、ここで昼食後、工藤支部長より阿蘇山についての講話を拝聴。14時00分に「みんなの森」を出発して、車道を歩き、14時30分に「いこいの村」着。入浴後、15時10分より解散式を行い、15時30分「いこいの村」を後にした。

九州5支部合同集会の参加者(敬称略)

本部一 宮崎紘一 (1人)

北九州—伊藤久次郎、板倉健一、関口興洋、溝部忠増、 馬場基介、高畠拓生、山田武史、原広美、 竹本正幸、椋本逸雄 (10人)

福岡一 副島勝人、高木荘輔 (2人)

東九州一加藤英彦、星子貞夫、甲斐良治、西孝子、 飯田勝之、中野稔、久保洋一、下川幸一(8人)

宮崎一 末永軍朗、谷口菊美、武田芳雄、水永一芳、 多田周廣、櫻木勉、恒吉克範、村尾保義、 橋口光博、原崎治人、四宮林三、池上進、 阿部速、岡本眞理子、久峩慧子、川越典子、 藤川弘子、谷口敏子、矢野亮子、恒吉韶子、 服部澄子、村尾恵子、海野奈美子、橋口三枝子、 石井久夫 (25人)

熊本一 工藤文昭、永谷誠一、廣永峻一、加藤功一、 石井文雄、加藤綾子、加藤百合子、加藤明、 安場俊郎、中林暉幸、田北芳博、宇都宮信夫、 植木隆俊、植木啓子、千々岩泰子、山本直、 坂西直明、松本莞爾、 (18人)

2011年度 自然保護全国集会 「福岡会議」の報告

平成23年6月11日(土)、12日(日)、福岡の「西鉄イン福岡」で、日本山岳会自然保護委員会と福岡支部の共 催で、2011年度自然保護全国集会が開催された。この度の東日本大震災の影響により、東北地方の支部の出席は 少なかったが、全国から78人の参加により、また、尾上会長のご臨席もあって、活発な議論が展開された。

6月11日(土)「西鉄イン福岡」で、09:00受 付、09:30 開演

本日の司会者、富沢自然保護委員長挨拶のの ち、東日本大震災の被災者及び3月30日に急逝 された松本徰夫先生の冥福を祈って、黙とうを ささげた。

○ 午前:各支部よりの活動報告。

(埼玉、信濃、岐阜、山梨、宮崎、東九州、北 九州、広島、山陰、関西、富山、京都、東海、

越後、福島、北海道、)

北九州支部からは、日向自 然保護委員長が森林巡視活 動、登山道の清掃、英彦山の トイレ問題等について報告し た。

○ 午後:テーマ「エコツー リズムと屋久島」

1. 山川自然保護担当理事 より、「屋久島問題とりく みの経緯と課題」について 報告があった。

2.「エコツーリズムとは なにか」の演題で、広瀬 敏通氏より講演があった。

3. パネルディスカッション「これからの屋久島を 考える」

北九州支部の活動報告を

する日向自然保護委員長

パネラー

伊藤秀三 (日本ガラパゴスの会会長) 広瀬敏通(日本エコツーリズムセンター代表理事) 井上 晋(福岡支部自然保護委員)



太田五雄(日本山岳会福岡支部・屋久島在住) 山川陽一(日本山岳会自然保護担当理事) 進行役

山本 博(日本山岳会福岡支部自然保護委員)

今回は、限られた時間の中でのディスカッションで あったが、屋久島問題は、「入山規制」「財源」「山岳 トイレ」「登山道」「アクセス道」「山小屋」「ガイド制 度」「推進組織」と多岐にわたっており、どれ一つ取 っても根が深く、難しい問題を抱えている。

会議終了後、13階に場所を移して懇親会となったが、 疲れた体と頭にビールが走り、生き返りました。

6月12日(日)フィールドスタデイ

宝満山及び四王寺山登山のため、ホテルを8時に出 発して登山口に向かったがドシャ振りの雨であり、登 山を断念して県民の森および水城城跡を見学、大宰府 で昼食後、解散となった。

北九州支部参加者(敬称略) 日向祥剛、溝部忠増、伊藤久次郎、馬場基介、 関口興洋、山田武史、榊 俊一 (計7人)

[報告:山田 武史]

頑張ろう東北日本に呼応して 宮城支部主管の全国支部懇に参加しよう

費用 局 詳 ラ 申 会場 日さし駒動一催 時いま山し丸し平のまとま成 細える。 ま 細 集会こと記念山行の 日 10 しなす に明部 王 栗 16 震 樹 地原生 原 詳示名括 月 万 日 月 山 (120名 、記念山(名) 古栗駒 26 の 東 15 希望し込む。 おいまで、 から 日開災は 登記 15 こと。 日 花 円 山念、宮、山黎城 本催後、 時 園散 土 n 宿 山途 かが屈に 行など) ま申っしむ。 東北 田計駒 大学 けお指向支城 B行親県風 5 ・スを 込者 く迎のけ部で 世 会の間 事画山 16 地 え栗始員開

5月海外山行

室津健次会員の追悼登山 韓国「智異山(1,915行)」縦走・縦断 遭難現場で、大好きだった日本酒とお花を供え、ご冥福を祈る

関口與洋 副支部長

昨年5月、北九州支部創 立10周年記念の海外登山と して企画された韓国「智異 山」山行中に急逝された故 室津会員の1周期を迎える に当たり、同じ日程で追悼 登山を行った。

日程: 平成23年5月14日(土) ~16日(月)

5月14日、今回の参加者 12名で福岡空港国際ターミ ナルより大韓航空の784便(1 0:40発) で釜山へ向かう。 今回は遺族を代表してご子息

2人が参加された。対馬海峡をひと飛びで釜山空港に 到着。昨年お世話になった李さん(通訳・ガイド)の 出迎えを受け、バスで中山里へ。昨年と同じトムナム ペンション泊。オーナーも温かく迎えてくれ再会を喜 んでくれた。

5月15日、晴天、智異山国立公園の入山料を支払っ て専用バスに乗り換え法界寺入り口へ向かう。ここは 昨年、下山口に使ったところである。登山口の標高80 0流、智異山の主峰である天王峰の標高が1,915流であ るから標高差は約1,100%。天王峰登頂後、帝釈峰へ 縦走し更に北西の白武洞まで縦断する17*゚スス゚の行程で ある。7時半過ぎに出発。緩やかな道をしばらく行く と「あけぼのつつじ」に似た薄いピンクの花をつけた 樹木に出会い、1,000粒を越えるあたりからダケカン バが現れる。法界寺(1,300行)の休憩舎で大休止の

あと室津さんの遭難現 場を目指す。30分で到 着。一般登山者の邪魔 にならないように登山 道から少し離れた場所 で、日本から持参した 遺影と、室津さんの大 好物の日本酒を、そし て現地で入手したお花



遭難現場で花と日本酒を

を供え、追悼式をとり行った。短時間の式であったが、 ご子息にとっては感無量であったと思う。最後はお酒 を地面に注ぎお別れの挨拶とした。昨年はここから直 ちに引き返したので、これから先は未知の世界である。



韓国智異山の最高峰「天王峰」山頂で

そこから15分ほど登るとカタクリの群生地であった。 天王峰がのしかかるようにきつ立する姿が視界に入り 傾斜が増してゆく。階段も多くなるが、ステップの滑 り止めに自動車タイヤを細工して貼り付けているのに 感心する。韓国本土の最高峰だけに登りがいがある。 途中、何度も立ち休みしながらようやく天王峰(1,91 5行) の頂に立つ (12:00)。360度の大展望台である。 記念写真を撮ったあと混雑した頂上から離れ昼食をと る。これから西方の帝釈峰(1,806な)を目指し縦走 が始まる。快適な道である。振り返ると天王峰がピラ ミダルな美しい姿をみせている。1時間で分岐点のジ ャントモク(1,700行)に到着。トイレの備わった立 派な山小屋がありしばらく休憩する。これから白武洞 までが長い下りでうんざりする道程である。北西方向 に進路をとる。韓国の山は花崗岩の岩山が多く、固い 岩道を踏みつけながら下ると膝の負担が大きく難儀す る。苦しい歩きのなかで唯一の救いは新緑の美しいグ リーンシャワーを浴びながら歩くことである。途中で エアーサロンパスの助けを借りながら、3時間20分を 要し、何とか下山できた。疲れた体を回送のバスに託 し、宿舎に戻った(18:55)。

<コースタイム> 法界寺入り口7:35·・・法界寺9:12~ 9:35・・・追悼式10:05~10:15・・・天王峰12:00~ 昼食12:15~12:45・・・ジャントモク13:40~13:55・ ・・白武洞17:15

<参加者>原 広美、伊藤久次郎(*)、高畠拓生、 関口興洋(*)、山田武史(*)、榊 俊一、椋本逸雄(*) 平野一幸(*)、赤瀬栄吉、井上 薫、室津博文、 計12人 (*)は、昨年の参加者 室津祐二

5月海外山行 智異山追悼登山に同行して 若者が多いのに驚く

北九445 井上 薫



5月15日当日も、前年と同じ様に好天に恵まれ、室 津健次さん1周忌登山に参加させて頂きました。

今回はご子息2人(兄の祐二さん、弟の博文さん) が参加されましたが、父親似の立派な好青年です。私 は、室津健次さんとは面識は無かったのですが、会員 の皆さんからは大変慕われ、柔和な包容力のある方だ と聴いておりました。そして息子さんたちも父の性格 を受け継いでいるように見受けられました。

今回の参加者12人、山岳ガイドの徳永さん、現地ガ

イドの李さん、補助ガイド2人、総勢16人が15日AM7: 35法界寺登山口でストレッチ体操後、登山開始した。

智異山は国立公園とのことで、登山道はきれいに整 備されており歩きやすかった。最初は緩い登りだった が、室津さんが亡くなった8合目付近より急勾配が続 く。事故現場では伊藤さんが遺影、山田さんが献花を 用意され、室津さん好物のお酒をお供えして、故人の 冥福を祈り全員で1分間の黙とう。今回は山頂の天王 峰(1,915行) 往復の予定であったが、天主峰より帝 釈峰を経て白武洞登山口に至る縦断コースに変更とな った。古木もたくさんあり、新緑も美しく、水量も豊 富にて途中に3カ所給水場所があり、登山客が多いの もうなずける。当日は日曜日だったので、現地の登山 者が多かったが、私たちと同世代の人はほとんど見か けず、若者が多いのに驚いた。コース変更に伴い、全 長17 * 流のハードな行程になったが、PM5:15 全員下 山。特に、室津さん兄弟の弟博文さんは登山経験もな い中、最後まで良く頑張ったと思う。下山後、ペンシ ョンの部屋で、本日伊藤さんが撮影した、智異山登山 の姿が映っているビデオの上映があり、大変感激した。 全員が事故、けがもなく登山できた事はガイドのみな さん、室津さんのお陰だと思っております。もちろん 私も素晴らしい海外登山を体験させていただき、あり がとうございました。心より感謝致します。 以上

5月の山行

第3回 JAC広島・北九州支部交流会に参加して

雨でも楽しかったバスの中と交流登山

No.14876 池 田 智 彦

2011年5月28日、朝5時 広島支部との交流会参加のた め起床。残念ながら朝から雨 である。

日本山岳会入会後初めての 登山、また広島支部との交流 会も初参加。朝早く起きて「ま た山行ですか」といいながら 妻が作ってくれた、うめじゃ こ入りにぎりめしをザックに 入れ6時家を出た。

門司港駅6時29分発の列車 に乗り、集合地門司駅北口で 馬場さんの出迎えを受け、小 倉からのバスを待つ。「日本 山岳会北九州支部様」のステ ッカーがついた光観光タクシ ーの小型マイクロバスに乗



雨のなかでも楽しかった広島支部との交流登山

る。関口副支部長ほか小倉からの会員5人が乗っており、 1人伊藤支部長の姿なく、関口副支部長の説明によると 腰椎悪化で参加できないとのこと。まことに残念、一緒 にお酒を飲むのを楽しみにしていたのに。くれぐれもお 体を大切にして下さいと、心の中で祈り下関からの会員 さんの元へ。新下関で5人の女性会員が乗車して総勢15 人で一路高速道路を広島へ向けて出発した。

その内、原会員の歌唱指導で歌集を広げて車内音楽会が始まり、多くの山の歌をうたい、外は雨でも車内は、日本晴れの楽しい一時を過ごすことができた。高速道路庄原ICを出て軽い食事をしながら、池の原国民休暇村吾妻山に到着。登山準備をして今日の目的地「吾妻山」に向けて登山開始。雨は小雨で緑あざやかなスキー場の中を一団となって通り抜け、森の中を抜けて山頂1,239 気に30分ほどで到着。小雨の中、すがすがしい気持ちで下山して、バスで広島県民の森へ向けて出発。途中、バスの中で昼食のにぎり飯を食べながら、妻に感謝の気持ちと吾妻山のことを思いながら、おいしくいただきました。

しかし、バスは計画通りの道路が通行できなく、来 た道を大回りしていくことになり、3時のウエルカムパ ーティに間に合わない。ところが広島支部からの連絡で、 到着後入浴を済ませてからパーティに出席するようにと 有り難い心遣い、さらに夕食のご飯まで一緒に炊いてお くとのこと、感謝感激の大雨である。また、特に登山後 の入浴は気持ちよくすがすがしい気持ちで、ウエルカム パーティ会場へとバスで出発。何と会場は以前スキーで 来たことのあるスキー場のロッジであった。さらに常設 テント宿泊がロッジ2階の畳部屋と聞き2度感謝。16時 からウエルカムパーティが始まり司会の三好さん(広島 支部交流委員会委員長)のあいさつに続き、広島支部 の兼森副支部長、北九州支部の関口副支部長のあいさ つ後、西条の生酒で乾杯。感謝と感激で飲んだ酒のお いしかったこと。18時から夕食と懇親会が始まりビール でカンパイの後、酒盛りがはじまり広島の銘酒を存分に

頂き気分壮快。特に支部どうし交互に座り、和気あいあいの雰囲気で大変盛り上がった後に自己紹介があり、広島支部総務委員長の渡辺さんが紹介された「金屋子神話」の話が特に印象に残った。また兼森路子さんの漬けたタクワン、三好 勇さん自ら作った無農薬栽培のレタスのおいしかったこと、皆で合唱した山の歌、楽しい広島支部との交流会ができた一日目であった。さらに夜が更けてから2階ロビーで3次会、お酒に感謝しながら安らかに23時ごろ就寝した。

翌朝6時起床、前日の酒の影響なし。しかし外は雨 足が強い。朝食後、登山に向けて出発準備、県民の森登 山口へバスで移動。コースの説明があり、ゆっくりコー スと健脚コースの2種類あり、北九州支部は全員健脚コ ースで比婆山(御陵)へ登ることになった。北九州支部会 員15人(CL関口、SL原)、広島支部会員9人(CL渡 辺、SL森)の総勢24人で行程3時間30分の予定で出発。 途中ブナ樹林を通り、みんな無言で雨のふりしきる中、 1時間30分で頂上1,264行の比婆山(御陵)へ登頂。帰 りはおっぱら越え経由で、雨でずぶぬれでも心は晴れ晴 れ気持ちよく下山できた。また、下山後の入浴は最高。 ビール片手にロビーで雑談しながら楽しい昼食。家から 持参した野菜とフランスパン、皆さんからの差し入れの つまみに、パンとビールのおいしかったこと。その後、 広島支部の皆様とお別れのあいさつを交わし帰路につい た。帰りのバスの中でも酒盛りがはじまり、新人池田智 彦にとって、このたびの広島支部との交流会は最高の山 登りと、人と人との出会いができたと思う。広島支部の 兼森副支部長以下皆様に感謝申し上げます。

妻の一言「また山はじめたの」

(参加者)原 広美、浜松禮子、馬場基介、舛木 隆、 関口興洋、山田武史、池田暁彦、高城季美子、榊 俊一、 大内喜代子、椋本逸雄、平野一幸、福田陽子、池田智彦、 森本信子

山行記 大崩山 山の魅力が集約された山

No. 14690 椋 本 逸 雄

日時:2011年5月18日~19日 参加者:高畠、宮原、中村(拓山 会)、井上、椋本

5月18日、高畠さんの自宅を朝 6時30分に出発。10時40分、宿泊 先の渓流荘に到着。その足で「落 水の滝」へ。高畠さんのご厚意で祝子川(ほうりがわ)源流域の滝の上へ。清流が息づく一枚岩の岩盤の上を歩いて見る。仙境的な雰囲気で、高座の一角にいるような気分、滝の上までなかなか行けないだけに貴重な体

験でした。

続いて滝つぼへ、高さは15気ほど、水量が少なく岩肌を縫って流れる程度だったが、落水の滝というイメージはしっかりと体感できました。往復3時間、時間的にもちょうど良く、下山後も、初めての私たちのために、大崩山登山口へと足を運び、登山口を確認、16時すぎに宿に入る。翌日の朝、登山口を6時に出発。大崩山荘を起点に、袖ダキ~わく塚(下・中・上)

~大崩山山頂~ 坊主尾根分岐~ リンドウの丘(昼 食)~小積ダキ ~米塚(坊主岩) ~大崩山荘~登 山口へと、約10 km、11時間(目 標12時間)の長 丁場でしたが、

計画通り、全員が

無事下山(17時)でき、天候にも 恵まれて、大崩山のよさを満喫し た一日でした。山頂で満開のアケ ボノツツジが見られたのも当たり でした。登山中、要所要所で時間 を取っていただき、余裕のペース で歩けたのも良かったと思いま す。大崩山初登山で感じたことを 一言でいえば、山の魅力が集約さ れたような山だと感じました。屋 **久島を思わせるような原生林に渓** 谷、岩尾根に映える美しい五葉松、 夏木山の古木とはまた違った味わ いの木立のアケボノツツジ、袖ダ キ・リンドウの丘・小積ダキ・見 返りの塔などの展望所から見る岩 峰の絶景、象岩や乳房岩などの自 然の造形等々、山のよさがいっぱ い詰まった魅力的な山だと思いま す、。絶景ポイントの多い中で、 一つだけ挙げるとすれば、袖ダキ 展望所から見る絶景、特に水墨画 を彷彿させるような下わく塚の岩 峰の景観は圧巻、自然の造形美の すばらしさを感じます。北九州か ら1週間に1度やって来るという 人の気持ちが分かるような気がし ます。撮影ポイントも数多くあっ て、風景写真が好みのカメラ好き にはたまらない山だと思います。 いいものを見るにはリスクが伴 うのも事実で、アルミや鉄製の はしごの多いのにはびっくり、



大崩山で(左から椋本、高畠、井上の各氏)

岩尾根を下る際の象岩下のトラ バースから米塚(坊主岩) に至る

1時間ははしごの連続で、高所 に弱い私にとってはひやひやの 緊張の連続で、解放された時に はほっとしました。いちばん行 きたかった山で、2年越しの念 願がかないました。この機会を つくっていただいたのも、5月 14~15日の智異山追悼登山で高 畠さんとご一緒できたことが縁 で、今回、あつかましくも拓山 会の皆さまの計画に便乗するこ とができました。感謝の気持ちで いっぱいです。この経験を今後に つなげたいと思っています。

山行記(テント泊)

念願の祖母、傾を単独縦走

宮 城 No.13987 尚志

間のおよそ

休日を利用して4月30日(土) から5月2日(月)までの2泊3 日で実施しました。

初日は九折登山口から傾山に登 り縦走路を進み九折小屋で1泊、 祖母九合目小屋に1泊して健男社 横の上畑登山口に下山する計画で した。

前日、九折登山口に夕暮れ前の 19時に到着、満天の星空の下、マ イカーで仮眠しました。

5:00に起床、天気は晴れ。昨夜 の弁当の残りを腹に入れ、5:30ス タート。初めてのコースで数回迷 いながら30分で観音滝に到着、水 量は余りありませんでしたが落差 が軽く50メートル以上はあり、新 緑も見事でした。

急登を越え三ツ尾付近の尾根に 出るとアケボノツツジとミツバツ ツジがちらほら咲いていました。

10:30傾山山頂へ到着。晴れて いるのにかすんで視界が悪く、遠 く祖母山とゴツゴツした大障子岩 がうっすら分かりました。後で分 かったのですが黄砂の影響とのこ と。とても残念でした。

小休止後出発し、縦走路を進み、 九折小屋がある九折越に12:00に 到着。広々として気持ちいい場所 です。行動食で腹ごしらえをして、 ラジオのスイッチを入れると天気 予報で今夜から明日の朝にかけて 雨が降るとのこと。実際曇り空に なってきたので迷いましたが、時 間も早いので九折小屋泊をやめ、 尾平峠の手前にあるテント場まで 約4時間足を延ばすことにしまし た。九折越を過ぎるとすれ違う登 山者の数もめっきり減りました。

縦走路沿いにある笠松山、本谷 山を越えポツポツと雨が落ちてく る中、16:30やっとのことでテン ト場に到着。既に2張りの先客が いましたが、あいさつする暇もな くすぐにテントの設営と水くみを しました。

どうにか日暮れには間に合い、 お湯を沸かしてカップラーメンと おにぎり、そしてスルメをロウソ クの火であぶりながら焼酎を少し 飲んだ後、寝袋に潜り込みました。

しかし寝る頃になると風雨はかなり強くなりました。四隅をロープで固定しているものの100円ショップのレジャーシートの上に立てたツエルトテントでペグも打たずでは、いつ飛ばされてもおかしくない状況。突風が吹くたびに大きく揺れ、雨のしぶきが顔にかかるという状態での一夜でした。

2日目は、ほとんど寝られず4時に起床、まだまだガスっていましたが、雨は小降りとなり、残りのおにぎりを雑炊にして朝食をとり、テント撤収を終え6:30出発しました。少し歩くとすぐに雨にぬれ、濃くなった新緑の原生林が広がる中にピンクのトンネルがあり、霧の中にアケボノツツジの花が揺れていました。

尾平越に7:00、大岩と急登を越 え古祖母山に9:00到着、スズタケ の縦走路を抜け障子岳に10:00着 と霧雨と風の縦走路を進みまれた。 時折シカやイノシシが現れた 自然を感じました。時間的にから 自然をきたことから障子岳山にから 地図上40分で行ける親上に戻り、 天狗岩に12:00着きました。こしず つ視界が広がってきましたの つ視界が広がってき からの天狗岩は高度感もあり素晴 らしい展望でした。

ガスが切れ正面に一面黄色のマンサクで染まった祖母山南壁が現れました。ロープやハシゴが架かった壁の難所を慎重に越え、14:20祖母山頂上に到着しました。

このころやっと晴れたので、山頂で約1時間ゆっくり過ごし、15:30祖母山九合目小屋に入りました。

この日の宿泊客は6人、連休に しては例年より少ないと小屋番さ んは言っていました。ご飯を炊い てレトルトカレーに小屋で売って いる缶ビール(500円)で夕食を 夕暮れ前に済ませ、その後談話室



念願の祖母・傾、大縦走を単独でやりました。

のコタツにいた小屋番さんの周り にみんなが集まり、持ち寄ったお 酒と小屋の缶ビールで消灯まで小 宴会をしました。6人それぞれが 別の県(岩手、岐阜、石川、兵庫、 宮崎、福岡)から来ており、お国 自慢と山自慢で大いに盛り上がり ました。

そして、夜9時に消灯、宿泊客が少なかったことから寝袋の下に 毛布を3枚もひかせてもらい、昨 夜の分まで気持ちよく熟睡するこ とができました。

最終日3日目の朝は、5:00に起床し、祖母山頂上でご来光を拝みました。天気は晴天で、今日歩く岩尾根も東方に臨めますが、黄砂が一昨日以上にひどい状態でした。

6:00に小屋を出発し、八丁越を越え、岩峰群の大障子岩に9:00到着、前障子岩11:20到着。この辺りはルートが荒れて分かりにくい場所も多く、また高度感ある岩稜が続き慎重な歩きが必要な場面も多いところです。しかし、雄大な景色と岩稜に咲くアケボノツツジ、今回はまだ堅いつぼみでしたがシャクナゲも多く大変楽しめる縦走路と感じました。

前障子岩を過ぎた景色のいいところで昼食にしました。行動食を止め、小休止してお湯を沸かしカップラーメンとコーヒーを最後に楽しみ、その後上畑までの新緑の縦走路を下りました。

登山口の健男社に14:30到着し、 車道を歩き15:30車を置いた九折 登山口に戻り3日間の縦走を終え ました。

初めての祖母・傾山縦走の2泊3日で体がぼろぼろとなりましたが、以前からの思いを達成することができよかったです。

また、今度は黄砂のない天気の良いときに行きたいと思います。



◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

会務報告

平成23年5月 定例委員会報告

日 時: 平成23年5月11日(水曜日) 18:30~

場 所:小倉商工会館3F会議室

出 席:伊藤、関口、板倉、馬場、山田、江頭、 日向、原、濱松、磯野、池田、高畠、藤田、

欠 席:中岡

会務報告:

- (1) 4月6日(水) 臨時委員会開催(第12回通常 総会付議案件の審議)
- (2) 4月23日(土)第12回通常総会(ブルーウ ェブイン小倉)
- 1. 議事
 - ・支部長ご挨拶:新体制での支部運営について

- (1) 新役員人事に基づく役割、分担について
 - ① 広報
 - ② 自然保護(森林巡視員活動)
 - ③ 救急体制
 - ④ スキー部新設
- (2) 会員の異動と会費納入状況について
- (3) 山行報告
- 4月17日(日)陶ケ岳
- (4) 行事・山行計画
- 5月1日(日) 雷山・井原山縦走(中止)
- 5月14日(土) 16日(月) 智異山追悼登山
- 5月28日(土) 29日(日) 英彦山山開き
- 5月28日(土) 29日(日) 広島支部との交流登山
- 6月4日(土) 5日(日) 九州5支部集会(熊本支部)
- 6月11日(土)12日(日)自然保護全国集会(福岡支部)
- 7月23日(土) 犬ヶ岳~求菩提山縦走
- (5) 次回支部報の発行について
- (6) その他

<u>松本徰夫先生追悼会(偲ぶ会)のご案内</u>

日本、九州、福岡の登山界の重鎮であった松本徰 夫先生が去る3月30日急逝されましたとは、ご承知 のことと拝察いたします。

つきましては、先生の生前を偲び、追悼会を企画 14たしました。先生と山・探検・チベット・シルク ロード・地質・植物等々での関わりのあった皆様に 一同に会していただき、先生とのエピソードを語り、 生前の在りし日の先生を偲び、さらなる交友を深め たいと思います。

何卒皆様のご臨席をたまわりたくここに謹んでご

案内申し上げます。また、ご案内もれもあるかと存 じます。ご友人などお誘い合わせていただければ幸 いに存じます。 謹白

発起人 深田 泰三 (岳友代表)

> 船津 武士 (九重の自然を守る会)

太田 五雄 (屋久島代表)

副島 勝人 (日本山岳会福岡支部長)

日 時 平成23年7月23日(土)

18時~20時(受付17時30分から)

場 所 福岡国際ホール (西日本新聞会館16階) 福岡市中央区天神1-4-1 電話092-712-8855

会 費 8000円

※準備の都合上、同封はがきにて7月15日までにご 返事ください。※なお、平服でご出席ください。ご 供物等は一切ご遠慮ください。

【世話人】日本山岳会福岡支部 渡部秀樹・倉智清 司(倉智勤務先アオヤギ株) 電話092 (761) 8805 (なお、北九州支部の出席希望者は、7月13日までに 事務局山田092 - 844 - 3563まで連絡ください。)

「山のトイレ、環境を考える福岡協議会」総会が開催

平成23年度の「山のトイレ、環境を考える福岡協議 会」の総会が、平成23年6月26日(日)、13時より大 宰府市「大宰府館まほろばホール」で開催され、当支 部から伊藤、関口、山田の3人が出席。第3回目とな る今回の総会は活動報告および次年度の計画 (案)、 会計報告およ次年度の予算(案)並びに役員改選の議 案が原案通り承認可決された。役員改正では、運営委 員として大庭前支部長に代わって伊藤新支部長が任命 された。

総会終了後、太田五雄氏の「世界自然遺産 屋久島 の環境について」の講演。また、場所を変えての懇親 会も、情報交換等を通じ親睦がはかられ、大変有意義 だった。(報告:山田武史)

栗駒山登山と蔵王連峰縦走

全国支部懇談会·宮城支部

- と き 10月15日(土)~18日(火) 全国支部懇談会・宮城支部と記念山行
- 行 程 ○10月15日(土)福岡空港出発7:25→東京 着8:55。新幹線にて栗駒高原駅へ→ハイルザ ーム栗駒15:00より記念講演・懇親会。栗原市 栗駒町(泊)
 - ○10月16日(日)記念山行「栗駒山」登山。

下山後仙台へ(泊)

○10月17日(月)北九州支部記念山行「蔵王 連峰縦走「刈田岳~熊野岳」。下山後山形→東京 へ(泊)

○10月18日(火)北九州へ帰途に着く 参加費 18.000円+往復交通費・宿泊費 申込み 山田武史 Tel・Fax 092-844-3563まで ※参加人数に制限があるので7月20日まで申し込みを お願いします。(7ページと関連)

会員異動

現在会員数

本部会員 83人 支部会員(支部友) 63人 会友 4人 計 150人

新会員

○ 本部会員

古木 義邦 14833 山口市維新公園

竹本 正幸 14852 行橋市東泉

竹本加代子 14853 同上

木原 充 14875 北九州市小倉北区

池田 智彦 14876 北九州市門司区

赤瀬 榮吉 14916 古賀市中央

○ 支部会員

末永 勉 北九417 退会

縄手 修 北九447 入会(紹介者:大庭常生)



山のニュース

(最近の新聞などのニュースから)

7大陸最高峰制覇 最年少記録更新 英国16歳少年

英国の16歳の少年が5月26日に世界最高峰のエベレ スト(8,848行) の登頂に成功し、7大陸最高峰制覇の世 界最年少記録を更新した。英BBC放送が27日伝えた。 記録を更新したのは、5月29日が17歳の誕生日のジ ョージ・アトキンソン君。昨年米国人の17歳の少年が打 ち立てた最年少記録を破った。(5月29日 東京新聞)

九重の自然を守る会が発足50周年

大分県九重町の「九重の自然を守る会」の発足50 周年を記念して、同町・長者原に建てられた初代理 事長の故赤峰武氏 (1984年死去) の顕彰碑除幕式が6 月18日、現地であった。守る会は、50年代の登山ブ ームで地元にできた登山ガイド養成教室が前身、61 年に結成した。(6月19日 西日本新聞)

8月第1週指導強化 北アルプスなど 高山植物保護対策協

高山植物等保護対策協議会中信地区協議会は6月 6日、松本市の県松本合同庁舎で総会を開いた。本 年度事業方針などを決め、入り込み者が最も多くな る8月第1週を「高山植物保護パトロール強化月間」 とし、北アルプスや美ケ原周辺で合同パトロールを 実施。保護意識が低い初心者や海外からの旅行者へ のPRに力を入れる。(6月7日 東京新聞)

本

紹介

九州百名山地図帳

2011年5月1日「五十嵐 賢 の山のたより」から。

皆様へ。1993年「九州百名 山」、2002年「新版九州百名山」 に続いて3回目の改訂版とし て地図を重視した「九州百名 山地図帳」を刊行しました。 今回は新たに12の山が入れ替



わり、特に五家荘の山が増えています。そして著者 が増えて15人、新たに法華院温泉の弘蔵氏や吉川渡 氏(吉川満氏の実弟)佐賀ガイドクラブの池田、元 村氏、人気HPヤマセミ&カワセミこと林田ご夫妻 などが加わって多彩なメンバーです。その分吉川 (満)、藤田、五十嵐は担当を減らしています。後継 者の方々に期待したいところです。定価3360円

紹介

山と人百話 九州の登山史

山の案内所は多いが、「いつ、 だれが、どこを、どのように登 ったか」記録したものは少ない。 古い山岳図書の散逸もひどい。 あっても多くは日本アルプスや 東日本の山が中心で、九州の山、 九州の岳人の記録について語ら れたものはあまりない。史実を



追うほどに、その奥行きの深さ、広さを知った。知る ほどに胸に迫ったのは、山に向き合う人たちの山に対 する敬虔の念、ひたむきさ、情熱だった。本書はその 「記録」である。(「あとがき」から)

松尾良彦 著 定価2200円

会員はぜひ読んでほしい一冊です(Q)

9 月の山行

九重連山~法華院温泉 5コース一斉登山 「山の日」制定PRと森林保全巡視事業

と き 9月17日(土)~18(日) 申込み締め切りは、各コースとも8月30日まで

○ 長者原コース〜法華院温泉山荘(大内)

集 合 長者原駐車場集合 9:40

行 程 9/17(土) 長者原(10:00)~指山山頂(往復)~雨ケ池~法華院着(15:30) 9/18(日) 法華院温泉(9:00)~北千里~すがもり~長者原(12:00) 解散

申込み 大内 喜代子(自宅 FAX: 083-256-5288)

このコースへ参加の方はマイカーをご利用(相乗り等)下さい。

○ 牧ノ戸コース〜法華院温泉山荘(竹本)

集 合 おこしかけ 6:20 (牧ノ戸8:50)

行程 9/17(土) おこしかけ(6:30出発 マイカー) 〜牧ノ戸(9:00出発)〜牧ノ戸〜久住山 (11:40)〜12:10)〜天狗ケ城〜中岳(13:20)〜白口岳(14:10)〜鉾立峠〜法華院 温泉15:30(泊)

9/18(日) 法華院温泉(8:00)~諏蛾守越~三俣山(10:20)~諏蛾守越~久住分れ(12:20) ~星生山(13:35)~牧ノ戸15:30~おこしかけ 18:00解散

申込み 竹本 正幸 (TEL: 0930-28-9611)

○ 赤川コース〜法華院温泉山荘(中岡)

集 合 現地、赤川荘駐車場(9:00)

行 程 9/17(土) 赤川荘駐車場 (9:00)→久住山 (12:30昼食13:00)→久住分かれ→法華院 温泉 (15:00) 泊 (状況により牧ノ戸コースに合流)

9/18(日) 法華院温泉8:00→(北千里経由)久住分かれ(10:30、10:50)→扇ケ鼻(11:30)→赤川荘(13:00)解散

申込み 中岡 邦男 (TEL:0949-26-6823)

○ 吉部コース〜法華院温泉山荘(西村)

集 合 道の駅おこしかけ (7:30)

行 程 9/17(土) おこしかけ (7:30)→飯田高原JA広場 (9:40)→吉部登山口 (10:00)→平治岳 (12:30、13:30)→坊ケツル (15:00)→法華院温泉 (15:20) 泊

9/18(日) 法華院温泉(8:00)→段原(10:00)→大船山(10:30、11:00)→北大船山(11:35、12:20)→大戸越(13:00)→吉部登山口(15:10)→「道の駅おこしかけ」(17:30) 解散

申込み 西村 信子 (TEL・FAX: 0930-33-4618)

○ 沢水コース〜法華院温泉山荘(椋本)

集 合 おこしかけ 7:30 (沢水展望台10:30)

行 程 9/17 (土) 沢水展望台 (11:00) ~鉾立峠~立中山~法華院温泉15:30 (泊)

9/18(日) 法華院温泉(8:00)~北千里浜~天狗ケ城~中岳~稲星山~沢水展望台(15:00)

申込み 椋本逸雄 (TEL/FAX:0930-56-3795)

参考情報:法華院温泉〜中岳間の白口谷コースは、現在警察の要請で通行禁止になっている。 (法華院温泉山荘、弘蔵社長の話)

山行計画のご案内

7 月の山行

山岳技術専科

とき 7月16日(土)

(※ 詳細計画は4ページをご覧ください。)

女性專科

と き 7月30日(土)

(※ 詳細計画は4ページをご覧ください。)

犬ケ岳ーノ岳(1,124流)~ 求菩提山(782㍍)(歷史探訪)

とき 7月23日(土)

ところ 豊前市 犬ケ岳、求菩提山

集 合 求菩提山登山口駐車場 8:30

行 程 登山口~恐淵~犬ケ岳一ノ岳~求菩 提山~登山口

歩行距離10km、累積標高差950m

申込み 椋本逸雄 (TLL、FAX0930-56-3795)

〆切り 7月19日 (火)

8 月の山行

夏休みのため、各人自由に山行を楽しんでいただ くため、月例山行はおやすみです。

9 月の山行

九重連山~法華院温泉一斉登山 「山の日」制定PRと森林保全巡視事業

(計画概要は15ページ掲載)

10月の山行

全国支部懇と栗駒山、蔵王連峰

(※ 詳細計画は13ページをご覧ください。)

サロン ルーム

毎月第4水曜日

7月のサロンは、27日(水) 8月のサロンは、24日(水) 9月のサロンは、28日(水)



午後6時30分から 時間

場所 - 小倉北区魚町「コール天」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワリカン制です)

金山(967.2m) 滝巡り森林浴コース (花乱の滝・坊主ケ滝)

と き 10月25日 (火)

ところ 福岡市早良区石釜金山

集 合 福岡市早良区石釜333-2

湧水千石の郷駐車場 9時出発

行 程 湧水千石の郷駐車場→花乱の滝⇒直登 ルート⇒金山⇒坊主ケ滝ルート⇒林道

⇒坊主ケ滝⇒湧水千石の郷駐車場 歩行時間 9km 5時間

全行程(異動、昼食含) 6時間

申込み 榊 俊一まで

TEL 092-947-3208 090-8416-4194

〆切り 9月末日 集合場所までの行程

高速道路福岡インター→福岡都市高速4号線 (貝塚方面) →月隈JCT(太宰府方面) →野芥IC (野多目、堤、福重方面)→国道263号線(内野、石 釜、曲淵、三ツ瀬方面) →唐ノ原多々良瀬 (左折) →湧水千石の郷駐車場 約50~60分

8月自由山行計画の案内・富士山

日 程:8月1日(月)~4日(木) 目的地:富士山1合目から~山頂

行 程:1日 小倉発19:52(ひかり)~岡山で夜行 寝台特急(サンライズ出雲・瀬戸)に乗り換え

2日 沼津着5:26、須山古道の入り口水ケ塚公園 へ。宝永火口を経て富士宮口6合目山小屋(泊)

3日 6合目山小屋~山頂(お鉢めぐり)~御殿場 口(大砂走り)~裾野の旅館「大野路」(泊)

4日 三島発(新幹線)~新大阪~小倉 申込み: 先着8人まで(タクシー2台の定員)

〆切り:7月11日

申込先:関口興洋(FAX:093-382-6436)

(注) 詳しい案内は参加希望者に追ってご連絡し ます。関口

編集後記

○ 東日本大震災も少しずつ落ち 着きを取り戻し、復旧に向かっ

ているようです。長い時間がかかるでしょうが、東 日本の皆さん、頑張ってください。

○ さて、今回も支部報の編集担当を交代できませ んでした。今回は支部長と編集の二足のわらじを履 いて、私も頑張ります。 伊藤Q

○ 山の原稿は、事務局長山田武史または 伊藤久次郎へ。メールまたはFAXでお願いします。 Eメール原稿(写真も含む)は、伊藤宛 アドレス ja6cpl@ktj.biglobe.ne.jp です。 (5月25日変更済み)